



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済：予算関連（3月2日～7日）

1. 経済財務省次官の発言（2日付イーラーン紙）

経済財務省次官は、石油収入に依存しない抵抗経済の実現に向けた予算について言及し、政府の政策で最も重要な点は、税制改革による政府予算に占める税収の割合増であると述べた。

2. 補助金合理化第二弾（2日付ハムシャフリー紙）

政府が実施を強調する中、国会議員らは補助金合理化第二弾について、少なくとも第10期政権（現政権）期間中の実行は不可能であると反論している。政府が提出した来年度〔ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1392年（2013年3月21日～2014年3月20日）〕予算案の中には、現金給付額の増加を目論んだと見られる1,200兆リヤールの補助金合理化計画予算が組み込まれている。

3. 来年度予算案への国会議員の反応（4日付ドンヤーイエ・エグテサード紙）

2月27日に政府から提出された来年度〔ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1392年（2013年3月21日～2014年3月20日）〕予算案への国会議員の反応は、特に一般会計支出と補助金合理化に関して好意的なものではなかった。メスバーヒー＝モガッダム国会予算計画委員長は、一般会計支出が80%も上昇していることについて、赤字と借入を増やす以外何も生み出さないと述べた。

4. 昨年度予算における歳入（5日付ハムシャフリー紙）

アフマディーネジャード政権は、昨年度〔ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1391年（2012年3月20日～2013年3月20日）〕予算において、過去9カ月間（2012年3月20日～12月20日）で歳入目標の53%までしか得られていない。歳入は、前年同期比40.8%増の計344兆リヤールに対し、歳出は前年同期比62%増の631兆リヤールとなっている。

5. 拡張財政政策への批判（5日付ジョムフーリーイエ・エスラーミー紙）

タヴァッコリー国会議員は、来年度〔ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1392年（2013年3月21日～2014年3月20日）〕予算に関し、「本来であれば緊縮財政とすべきところを、政府は拡張財政政策を採用しようとしている。経済の後退やインフレ状態を避けるためには、5%

以上の経済成長率を実現しなければならない」と批判的な立場を示した。

6. 予算に関する商工鉱業農業会議所副会頭発言（6日付アブラーレ・エグテサーディー紙）

イラン商工鉱業農業会議所のソルターニー副会頭は、来年度〔ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1392年（2013年3月21日～2014年3月20日）〕予算案の歳入項目に関し、来年度の経済実態を踏まえていないことを指摘し、「今年度〔ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1391年（2012年3月20日～2013年3月20日）〕の一般会計の当初予算は1,300兆リヤールであったが、300兆リヤールが赤字となるため、最終的に900兆リヤールとなった。これにもかかわらず、1392年度予算は1,900兆リヤールとなっており、また、税収も1390年度予算時の倍近い530兆リヤールと見積もられている。実態を論理的に踏まえると、290～300兆リヤールとすべきだ」と主張した。

7. 通貨改革計画に関する経済財務大臣の発言（7日付シャルグ紙）

シャムソッディーン・ホセイニー経済財務大臣は、通貨改革計画に関する重要法案を国会に提出したことに関し、「我々は本計画を実行に移すべく（法案の）国会承認を待っている。20万リヤールや50万リヤールといった紙幣を発行しなければならない理由はインフレが昂進しているためであり、これは容易には制御できない」と述べた。